

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	北海道 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校
設置者名	北海道 YMCA

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	コミュニケーション学科 英語ビジネスコース	夜・通信	858 時間	160 時間	
	コミュニケーション学科 カナダスタディーコース	夜・通信	598 時間	160 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学内で常時閲覧が出来る状態で公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校
設置者名	北海道 YMCA

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	教育センター委員会
役割	学校運営について、学生募集や授業・内容についての審議を行っている他学生の進路指導や学校評価についても審議を頂いております。審議を頂いたご意見については取り入れられるものから学生募集や学校運営に反映していきます。 構成員については上限12名としております。現在は8名の在籍者がおります。構成員の任期については2年任期で行い2年毎に学校長が選任を行っております。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
元 日本キリスト教会牧師	2022.4.1 ~ 2024.3.31	キリスト教を通じて20年以上私立高等学校で指導をしている。
元 福士関係専門学校校長	2022.4.1 ~ 2024.3.31	教育センター委員として学校運営をお支え頂いている。
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校
設置者名	北海道 YMCA

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画書：新年度開始前に授業方法(学科、実技、研修)を各授業ごとに目標、内容、計画を定めて作成している。</p> <p>成績評価方法：定期試験を行い、試験結果により5段階評価</p>	
授業計画書の公表方法	学内で授業要綱として常時閲覧が出来る状態で公表
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>各授業科目の評価は定期試験、出席状況にて厳正に且つ適正に実施して単位認定を行っている。尚、出席日数がシラバスに定めている規定時間数に満たないものについては、不可とみなし評価を1としている。</p>	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)																					
<p>成績評価は定期試験により 100 点評価で実施</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>科目評価</td> <td>0～ 45 点</td> <td>: 1</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>46～ 54 点</td> <td>: 2</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>55～ 79 点</td> <td>: 3</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>80～ 90 点</td> <td>: 4</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>91～100 点</td> <td>: 5</td> <td>5%</td> </tr> </table> <p>以上 5 段階評価となる。</p>		科目評価	0～ 45 点	: 1	0%		46～ 54 点	: 2	30%		55～ 79 点	: 3	55%		80～ 90 点	: 4	10%		91～100 点	: 5	5%
科目評価	0～ 45 点	: 1	0%																		
	46～ 54 点	: 2	30%																		
	55～ 79 点	: 3	55%																		
	80～ 90 点	: 4	10%																		
	91～100 点	: 5	5%																		
客観的な指標の 算出方法の公表方法	校内で常時閲覧できる状態で公表																				
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。																					
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)																					
<p>卒業認定：修業年限、本校に在籍している事と既定の科目数、単位数を取得し総合出席率が 80%以上である事を条件として、以上のことを判定会議において判定し認定をしていく。</p> <p>未修得者：卒業単位未修得者に関しては卒業を延期する事となるが、以下の規定によって卒業を認定する。</p> <p style="margin-left: 40px;">1) 校長が指定した担当職員と面談を行い、提示された条件を満たした場合に限り卒業を認定する。</p>																					
卒業の認定に関する 方針の公表方法	校内で常時閲覧できる状態で公表																				

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校
設置者名	北海道 YMCA

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hokkaido-ymca.com/
収支計算書又は損益計算書	https://www.hokkaido-ymca.com/
財産目録	https://www.hokkaido-ymca.com/
事業報告書	https://www.hokkaido-ymca.com/
監事による監査報告（書）	https://www.hokkaido-ymca.com/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	コミュニケーション学科 英語ビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 時間 総授業時間	1,464 時間	156 時間	302 時間	単位 時間/ 単位	単位 時間/ 単位
			1,922 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		23人	人	3人	19人	22人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画書：新年度開始前に授業方法（講義、演習、研修）を各授業ごとに目標、内容、計画を定めて作成している。
成績評価の基準・方法
（概要） 期末試験、出席率、平均点、課題、レポートを総合的に評価し合格を46点以上とする。 成績評価方法：定期試験を行い、試験結果により5段階評価またはP Fで評価
卒業・進級の認定基準
（概要） 規定年数の在学、所定の単位数の取得と卒業認定によるもの
学修支援等
（概要） 個別面談、欠席時の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	2人 (15.4%)	8人 (61.5%)	3人 (23.1%)
(主な就職、業界等) ホテル、食品関連、食料品小売業			
(就職指導内容) 業界案内、履歴書、面接指導、就職活動におけるマナーなど			
(主な学修成果（資格・検定等）) 英検準1級合格、英検2級合格、TOEIC900点取得 情報処理技能検定試験（表計算）1級合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、学習支援		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	コミュニケーション学科 カナダスタディーコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,800 時間 総授業時間	1,754 時間	130 時間	142 時間	単位 時間/ 単位	単位 時間/ 単位
			2,026 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		0人	人	3人	19人	22人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画書 : 新年度開始前に授業方法 (講義、演習、研修) を各授業ごとに 目標、内容、計画を定めて作成している。
成績評価の基準・方法
(概要) 期末試験、出席率、平均点、課題、レポートを総合的に評価し合格を 46 点以上 とする。 成績評価方法: 定期試験を行い、試験結果により 5 段階評価または P F で評価
卒業・進級の認定基準
(概要) 規定年数の在学、所定の単位数の取得と卒業認定によるもの
学修支援等
(概要) 個別面談、欠席時の補講実施

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 英検準 1 級合格、英検 2 級合格、TOEIC900 点取得 情報処理技能検定試験 (表計算) 1 級合格			
(備考) (任意記載事項) 卒業生はコロナ禍によって 2 年次に上がる際にカナダスタディーコースから英語ビジネス コースに変更になったので卒業生は全員英語ビジネスコース (13 名) となります。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、学習支援		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
英語ビジネスコース	130,000 円	685,000 円	200,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hokkaido-ymca.com/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 2013年3月に文部科学省より示された「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目に沿って評価を行っています。評価委員については教育センター委員会の構成メンバーによって行われ、委員については上限が12名で現在在籍が8名となっております。評価結果については公表を行い学生募集や学校運営に活用しております。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
元教会牧師	2022年4月1日～ 2024年3月31日	宗教関連
財団職員 (札幌市)	2022年4月1日～ 2024年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hokkaido-ymca.com/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hokkaido-ymca.com/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	札幌 YMCA 英語・コミュニケーション専門学校
設置者名	北海道 YMCA

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変によるものを除く）		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				-
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。